

山崎 武司氏インタビュー



野球解説も講演会も好評 「ずっと勝負の世界に居たい」

——まず今シーズンのドラゴンズについて。低迷していますが。

山崎 チーム全体が諦めムードの部分があります。こんな時こそ、選手一人一人が課題を持ち、チームのために自分がどこで貢献できるのか考えて欲しいです。Aクラスのチャンスはまだあるので、特に大野投手には頑張ってもらい投

山崎 武司（やまさき たけし）
1968年、愛知県知多市出身。87年、愛工大名電からドラフト二位で中日ドラゴンズ入団。オリックスを経て2005年、楽天創設メンバー。13年、現役引退。本塁打王2回、打点王一回など多くのタイトルを獲得

中日ドラゴンズや楽天ゴールデンイーグルスなどで活躍した山崎武司さん。セ・パ両リーグでホームラン王三回、三十九歳で本塁打王と打点王の二冠に輝くなど、記憶にも記録にも残る名選手。引退後も野球解説、テレビ出演、講演会と、八面六臂の大活躍である。

手陣を安定させてもらいたいです。

——引退して四年目、野球解説だけでなくバラエティ番組でも活躍中です。しかも講演会も好評という中日のOBは少ないのでは？

山崎 僕と昌さん（山本昌さん）ぐらいですかね。講演会はトヨタ系の会社はすべて行かせてもらいました。会社ごとに世代ごとに考え方は違います。その会社が求めていることを中心に、自分の考えを話しています。根性論が通じない若い世代には「今の仕事をとことんやらずにダメだと決めるのは、オレは怠慢だと思う」というように話していますね。

「やはり東京から発信していかないと」と、キー局のバラエティにも出演します。野球解説は在籍歴のあるチームだけする人も多いのですが、僕は東京のラジオ局で

中日以外の解説もしています。パリーグは全チーム解説しています。

どうしても、より新しいものを求められる傾向がありますので、（野球解説以外の）仕事は一年目から徐々に減っていますが、だからこそ解説はちゃんとやっていかないと、と思います。

——その山崎さんの野球解説はファンにとっても好評です。

山崎 過去の栄光だけではメシは食えません。解説も特徴を出していないと。初めて野球解説をした時に「解説も一つ一つが勝負。勉強や取材が必要」と強く感じました。僕の場合はダメなものはダメとはっきり言い、良ければ讃える……そこだけはずっと変えていません。

今は、ネットなどを駆使して当日の選手情報もしっかり把握して

から解説に入ります。情報を知っているという前提で実況者が話しかけてきますから、「知らない」では許されません。解説者の中には試合前の練習時に取材する人はいますが、僕は極力しません。OBが顔を出すことでチームの空気が変わり雰囲気壊すのが嫌なんです。選手に聞きたければ直接電話して聞いていますよ。それだけのネットワークを持っていますから。

——引退までに一人の監督の下で野球をされてきましたが最も影響を受けたのは？

山崎 野村（克也）さんです。出会うまでの僕は、「オレがオレが……」「野球さえしていれば……」という考え方。野村さんは「引退した後の方が長い。その後のことも考えていろいろやっていれば誰かが助けてくれる。野球バ力になるな。人脈も無いと人生において成功しない」と言われました。三十六歳の頃に会いましたから一般の社会なら定年間際。そんな人間の考えを覆してくれたのです。監督というよりオヤジという

存在でした。今も何かあったら相談しています。

会っていないければ僕は野球解説もしていないでしょう。講演会では最後の三〇分は野村さんとの話です。ただ、もっと早く野村さんに会っていたとしても聞く耳をも持たずケンカしてましたね。あの年齢だから良かった……いつ、どこで出会うかが大事なんでしょう。

ああ見えて野村さんは、情をかけてくれるし、練習は好きにやらせてくれます。「すべて結果で帰ってくるので自己責任で判断しろ」という考えです。普通の監督はその日の勝利だけを見据えて試合を作りますが、野村さんは「監督としての視点」が全く違いました。目先の勝負より、選手の将来まで考えて采配をする人です。指導者になったら、野村さんからもらった野球観を活かしていきたいです。

——今後やってみたいことは？

山崎 もう一度ユニフォームを着たいです。野球界で二人しかできない「監督」という仕事に声

がかかるような人間になりたいです。自分の後輩たちを指導して一緒に戦って優勝したいですね。このままで終わりたいくない。今でも常に「戦っていたい」という気持ちがあるので、年に五、六回はカーレースにも出場しています。

——一番思い出に残るホームランを教えてください。

山崎 周囲には「(球史に残る)万歳ホームランですね?」と言われますが、一番印象が強いのは、入団五年目に横浜スタジアムで放ったプロ入り初のホームランです。「やっつと、やっつとホームランを打てた。ここからが始まりだ」と嬉しかった記憶です。

——プロ野球選手を目指す子どもの親御さんにアドバイスを。

山崎 野球はどうしても親の協力が必要ですが、我が子を過剰評価する親が多い。親はサポートするだけにしてほしい。野球は指導者に任せて干渉しないで欲しいですね。

——理想のリーダー像は？

山崎 一番嫌いな言葉は、上司が部下に言う「オレが責任を取る

から、やれ」です。その人が責任をとって辞めたとしても、部下の生活まで保障できるわけではない。言葉より行動で「あの人のようになりたい」と思わせてくれるようなカリスマ性の方がいいと思います。

